花ずきん

2024年9月6日第11号
西南中生徒指導部通信
文責　松浦

パリ五輪から学ぶ

その一・『無課金おじさん』

パリオリンピックの前半、話題になったのが、『無課金おじさん』でした。（「無課金」とは、ソーシャルゲーム等で、全くお金をかけない初期装備のことを指す言葉です。）

「無課金おじさん」とは、射撃の混合エアピストルに出場し、銀メダルを獲得したトルコのユスフ・ディケチュ選手。

射撃は精密性を求めるため、ほとんどの選手は音を遮るイヤーマフ、ターゲットを見やすくする専用のグラス、照明の影響を減らすために帽子等、様々な装備品が認められます。

しかしながら、ユスフ選手はそのような装備は一切付けず、簡易な耳栓、普段使いの視力矯正用のメガネ、ラフなTシャツ姿で挑み、正確な射撃でターゲットを打ち抜いていたのです。

「（装備は）試したけれど不快だったからやめた。」とのこと。また、「人々は能力を超えて道具で戦っているが、人間の身体や能力で試合すべきで、それが五輪の本質にあるべき。」とインタビューで答えられました。

日本だけではなく世界中の人々が、人間の能力の限界に挑戦しているユスフ選手の姿に感銘を受けて、ネット上でトレンドになったのだと想像されます。

人間の能力の限界に挑戦する、文字にするとそう大変そうに感じませんが、何度も何度も失敗し、その原因を探り、また新たな方法を挑戦し、といった試行錯誤と苦労を重ね、自分自身を見つめ直す作業を繰り返し、今回の成功を収めたのだと想像します。感覚を研ぎ澄ますための小さな積み重ね、心を整え磨いていく、まさしく『凡事徹底』から『自己への挑戦』を感じた『無課金おじさん』ユスフ選手の活躍でした。

その二・『アンパンマンミュージアムと特攻資料館』

卓球女子代表である早田ひな選手が帰国後の会見で「やりたいことは？」と問われて、この二つを訪れたい、と答えられました。

「生きている、卓球ができるのは当たり前じゃないのを感じたいから。」

特攻資料館とは、鹿児島にある知覧特攻平和会館のこと。後者は何となく理由が分かる気がするが、なぜアンパンマンなのか？

そうだ　嬉しいんだ　生きる喜び　たとえ胸の傷が痛んでも
何のために生まれて　何をして生きるのか
答えられないなんて　そんなのは嫌だ！
あ　あ　アンパンマン　優しい君は　いけ！みんなの夢守るため

アンパンマンのマーチ、歌える人も多いでしょう。歌詞をよく読むと、子ども向けアニメ主題歌にしては意味が深すぎると感じませんか？作者のやなせたかしさんはなぜこんな詩にしたのか？

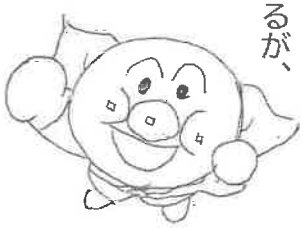
やなせさんは戦争で5年間戦場にいました。食べ物がなく、飢えに苦しみ野草を食べて生き延びた経験から、『飢え』が一番辛いと痛感されました。そんな中、“正義”って何だろうと疑問に思いました。本当の正義は飢えている子どもたちを助ける、**「戦う人ではなく、パンを与える人」**と考えたのでした。

困っている人に自分の顔をちぎって分け与えるアンパンマン。**「立場や国が変わっても、人のためにしてあげることは絶対に正しい。自分を犠牲にすることなく正義は通せない。相手を喜ばせることを喜びとして生きていく。」**…そんな想いを、最弱のヒーローであるアンパンマンにのせたのである。

アンパンマンと特攻隊。助けることと戦うこと。

やなせさんの考えからすると正反対の二つであるが、自分を犠牲にして誰かのために、

という点だけにおいては繋がっていると

感じながら、パリ五輪閉幕を向かえました。

（学生時代に訪れた知覧特攻平和会館を近いうちに訪れてみたいと思います。）